

II. マニュアル（なでしこ保育園）

1. 保育編

(1) なでしこ保育園の保育目標

—命を守り丈夫な体と、人間らしい感性を育てる—

1. 命を守り丈夫な体を育てるために、安全に注意し食事、睡眠、清潔等、一人ひとりに即した養護を行う。
2. 乳幼児期は人間関係の基礎のできる時期なので保育士との深い心のきずなを通して情緒の安定をはかり、人間としての基本的信頼感や思いやりの心を育てる。
3. 言葉の獲得や運動機能等、子どもの発達過程には臨界期があるので発達に見合った経験をさせる。
4. 発達に合わせた基本的生活習慣の自立を援助し、身辺自立を通して自信をつけ意欲や向上心をもたせる。
5. 豊かな心や言葉を育むために、年齢や発達に見合った絵本を選び読み聞かせを十分行なう。
6. 規範能力や思考力の育つ時期なので、やってはいけないことを教え自分で考えて行動できるようにする。
7. 友達との関わりや遊び、行事などを通して楽しい経験をたくさんさせ、仲間とともに過ごす楽しさを味わい、人への信頼感を育てる。
8. 人には個性があることを知り、障害のある子への理解を深める。

(2) 保育の心得

—かけがえのない大切な乳幼児期に楽しい園生活が送れるよう

子どものためにという使命感をもって臨む—

1. 命を守るために、子ども一人ひとりの健康管理と園内外の安全に心がける。
2. 心から子どもを愛し、わけへだてなくすべての子どもにやさしく接する。また心の育ちを見つめた保育を心がけ、一人ひとりの子どもにとって最善の方法を考える。
3. 子どもの発達には臨界期があることを考慮し、その年齢に経験しなければならない大切なことを見落とさないようにする。
4. 基本的生活習慣については、一人ひとりの成長を見きわめ自立に向けて発達に即した援助を行ない自信につなげる。
5. 豊かな言葉を育むために、子どもの成長に見合った絵本を選び、日々読み聞かせをする。
6. 規範能力の基礎が育つ時期なので、やってはいけないことを丁寧に教えながら生活の中で自分で考えて行動する機会を増やす。
7. 子どもと共に遊び、子どもの目の高さで付き合い、一人ひとりの子どもとの信頼関係をもとに子ども同士の仲間関係を広げる仲立ちをする。
8. 健常児も障害児も共に生活する中で、障害を理解し仲良く生活できるよう支援していく。

(3) 職員の心得

心得Ⅰ

◎職員間の調和に努め楽しい職場をつくる

1. 良い仕事することは人間としての使命である。保育は福祉の仕事である事を理解し「子どものために」という目的意識を持って働く。
2. 職員各自の特技や持ち味を生かし、意見を出し合いながらお互いを高められる関係を築いていく。
3. 自分の担当だけでなく園全体にも目を向け、職員同士の連携もうまくとり合い、雑務も積極的に行う。
4. 後輩の指導についてはかばうだけではなく、時には厳しい指導も必要であるが意欲を損なうような対応は避ける。
5. 職種、正規、パートに関係なく、責任を持った仕事をする。

心得Ⅱ

1. なでしこの職員らしい気持ちとふさわしい服装で保育をする。
 - ・ 保育に関わる者としての気持ちと服装で保育をする。
 - ・ 自分自身の健康に注意し、いつも明るい気持ちで勤務できるよう心がける。
 - ・ 服装は清潔で動きやすい物を着用し、髪の毛は短くするか束ねる。
 - ・ 爪は短く切る。
 - ・ お化粧や服装はあまり流行にとらわれず、自分らしさを表現できるようにする。特に髪の毛の色や形、爪の色、長さに気をつける。
2. 健康管理について
 - ・ 時間を上手に使い、休憩時間はなるべく身体を休ませるようにする。
 - ・ 休日は勤務に影響しないような過ごし方をする。
 - ・ クラブ活動等も自分の体調を考えて参加する。

3. 礼儀について

(1) 言葉使い

- ・正しい言葉を使う。
- ・子どもを呼びすてにしない（かわいがっている表現とは違う）。
- ・流行言葉は使わない。

(2) 先輩や目上の人に対して職員同士はパートでも人生の経験者として対応する。

4. 対外的な人間関係

(1) 園へ出入する人はすべて関係者なので、それを踏まえて対応に注意する。

- ・挨拶は相手に伝わるようにはっきりとし、来訪者は笑顔で迎える。

☆職員の対応で園の内容がわかる！

業者にも笑顔で挨拶！

(2) 電話の対応の仕方

- ・こちらが先に名乗る「〇〇保育園です」。自分の園の職員については、園長、先輩であっても「さん」「先生」はつけない。
- ・受けた内容は、口頭では忘れ易いので漏れのないようにメモをして関係者に渡す。
- ・自分から電話する場合は主旨を整理し、相手が理解しやすいように手際よく話す。

(4) 子どもの発達の日安

0歳児

1. 快適な環境の中で保育士との深い関わりにより、愛着のきずなが形成され情緒が安定し落ち着いた園生活ができる。
2. 保育士と遊ぶ楽しさを味わい一人ひとりに応じた欲求に満たされ、よく遊び、よく食べ、よく眠って安定したリズムで過ごす。
3. 授乳、離乳食、幼児食の段階を踏んで、食べ物をよく噛み飲み込むことを獲得し、食事を楽しむ。
4. 寝返り、ハイハイ、つかまり立ち、つたい歩き、一人立ちの段階を踏んで歩行を獲得する。
5. 発声、喃語、発語を促し、保育士の話しかけを喜んだり、自分から片言で話し始める。
6. 探索行動を十分経験して、身の回りのさまざまな物に興味や関心をもつ。

1歳児

1. 探索活動が活発になる時期なので、保育士に見守られながら自分の興味のある遊びを見つけて十分楽しむ。
2. 歩く経験をたくさんして、しっかり歩けるようになる。
3. 保育士に見守られながら、食事や排泄など自分でしようとする気持ちが芽生える。
4. 保育士の話を聞いて、やってはいけないことを覚える。
5. したいことやして欲しいことを、言葉や身振りで伝えたり、保育士と言葉のやりとりを楽しみながら言葉の修得を図る。

2歳児

1. 自分の感情（喜怒哀楽）を思いきり表現できる。
2. 自分の好きな遊びを十分楽しみ、また保育士と一緒に友達と関わって遊びを楽

しむ。

3. 保育士にかわいがられているという安心感をもち、身の回りのことを少しずつ自分でしようとする。
4. たくさん歩いて足腰を鍛え、全身を使った遊びを経験する。
5. 保育士の話を聞いて、やってはいけないことがわかる。
6. 自分のしたいことやして欲しいことを言葉で表す。

3歳児（年少児）

1. 保育士にさまざまな欲求を受け止めてもらいながら、安心感や信頼感を深め安定した生活が送れるようになる。
2. 依存から自立する時期なので、保育士に優しく受け止めてもらいながら身の回りのことが自分でできるようになる。
3. 保育士や友達と遊びながら、その行動を観たり模倣して遊びを広げる。
4. やってはいけないことが分かり、我慢ができる。
5. 保育士の話をよく聞けるようになり、したいことやして欲しいことが言えるようになる。
6. 固定遊具や用具などを使った遊びや運動を十分経験し、身体を動かすことを楽しむ。

4歳児（年中児）

1. 自意識が芽生える時期なので不安や葛藤もあるが、保育士に共感してもらったり励まされたりしながら相手の気持ちや立場に気づけるようになる。
2. 保育士や友達との関わりの中で、自分の気持ちを表現できるようになり、我慢を経験しながら友達関係を築く。
3. 保育士との安定した関係のなかで基本的生活習慣を身につける。
4. 保育士や友達と一緒に簡単なルールを守って遊ぶ。
5. 固定遊具を十分経験し、走る、ボール遊び、跳び箱、縄跳び、平均台、マット、プール等の運動遊びを楽しむ。

5歳児（年長児）

1. 基本的信頼感が身につき大人の言葉に耳を傾けることもできるようになり、友達の話をよく聞き自分の気持ちも伝えることができる。
2. 互いに相手を許したり認めたりする社会生活に必要な基本的な能力が身につき、仲間の一人としての自覚や自信がもてるようになる。
3. 友達と仲間を作って集団活動をするようになり、自分のやらなければならないことやきまりを守って仲良く遊べる。
4. 物事の良し悪しを判断し行動できる。
5. 基本的生活習慣が身につき、身の回りの始末ができるようになる。
6. 固定遊具を使いこなし、走る、投げる、蹴る、転がる、跳躍、ぶら下がる、泳ぐ、平衡感覚などの能力を養う。

障害児保育

—保育士との信頼関係を築くなかで、見守られ援助されながら—

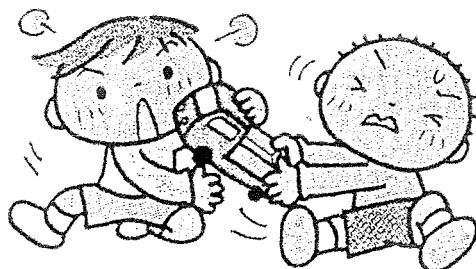
1. 自分の要求や意思を言葉や動作で伝えることができる。
2. 情緒が安定した生活ができる。
3. 喜怒哀楽を表現できる。
4. 遊ぶ意欲がもてる。
5. 身近な人と関わろうとする。
6. 自分の身の回りのことをやろうとする。
7. 一人ひとりが自分のもっている力を十分発揮できる。



(5) 年齢別保育

——参考例として、1歳児と3歳児の保育を掲載しました。

1 歳 児



【発達の目安】

1. 探索活動が活発になる時期なので、保育士に見守られながら自分の興味のある遊びを見つけて十分楽しむ。
2. 歩く経験をたくさんして、しっかり歩けるようになる。
3. 保育士に見守られながら、食事や排泄など自分でしようとする気持ちが芽生える。
4. 保育士の話を聞いて、やってはいけないことを覚える。
5. したいことやして欲しいことを、言葉や身振りで伝えたり、保育士とやりとりを楽しみながら言葉の修得を図る。

【担当保育士の配慮と子どもとの関わり】

1. 子どもとの関わり

- (1) 安全で子どもの旺盛な好奇心を満たす環境を設定し、保育士と一緒にいる安心感の中でひとり遊びを楽しむことができるようにする。
- (2) 特に動き回りたい時期なので何でも禁止しないで、探索活動を十分経験させる。
ただし、恐さ知らずなので危険からは守る。
- (3) 保育室や園庭は危険なものを排除し、安全、清潔に心がけ安心して生活できるような環境づくりをする。
- (4) 自我（イヤ、自分で、ダメ、バカなど）が芽生える時期なので、一人ひとりの気持ちを受け止め、その子どもに応じて根気よく教えたり待ったりする。
- (5) 自我を出せない子どもや感情や意欲に乏しい子、また動こうとしないで「ボーッ」としている子どもについては、家庭環境をよく把握し保護者と連携をとりながら関わり方について対応していく。
- (6) 一人ひとりの発達をしっかりとつかみ、大切な経験が抜けないように成長への仲立ちをする。
- (7) 保育士はゆったりとした気持ちで子ども一人ひとりの思いを受け止め、生活の安定を図りながら自分でしようとする気持ちを大切にしていく。
- (8) クラスを全体でまとめようとせず、少人数に分け担当制を取り入れる等して、一人ひとりとより深く関われるようにする。

2. 受け入れの準備

- (1) 健康確認
 - ①健康診断、予防接種について看護師に説明してもらう
 - ②母子健康手帳を持参のうえ看護師と面談し、入園前の健康状態を聞く
 - ③持病や体質、予防接種の状況等を知る
- (2) 個人面談
 - ①身体発達及び、離乳状況、寝かせ方、くせ、緊急連絡先を聞く

- ②話の中で保護者の心理状況をつかみ、信頼関係を早くもてるようにする
- ③家庭環境を知る
- ④園から渡すもの（印刷物等）を用意する
- ⑤家庭で準備する物を伝える（通園バッグ・午睡用布団・手拭きタオル・図書バッグ等）

(3) 年度途中の受け入れについて

- ①慣らし保育が始まる前にクラスのロッカー、下駄箱等の準備をしておく
- ②連絡網は名前を入れて渡し、名簿の最後の人にも連絡して渡す。また、園用の連絡網にも必ず記入しておく
- ③親子とも不安な場合が多いので、新学期と同じように保護者との連絡を密にし信頼関係が持てるようにする
- ④慣らし保育中に子どもの状態を聞いたり、園の内容や生活の様子を伝えたりする。（母子通園が可能な場合はしてもらう）

(4) 園生活に慣れるまでのポイント

- ①泣き続けたり寝なかったり食べない等の子どもがいるが、その子どもの状態に合わせてあせらず接していく
- ②安心感がもてるように担当制を取り入れる等、柔軟な対応をしていく
- ③泣き続けている場合には、戸外に出たり小動物を見せるなどして気分転換を図る

3. 複数担任のチームワーク

- (1) チームワークが保育の成果に影響するので、声を掛け合いながら協力し保育する。また、保育中は私語を慎む
- (2) 役割分担をするが、その時の状況に応じて臨機応変に対応する
- (3) 保育の場を離れる時は、その都度声をかけあう
- (4) お互いの意見を尊重しあい、協力しながら保育を進めていく
- (5) 一人ひとりの子どもについて話し合いを持ち、担任同士同じ様な接し方をする
- (6) 保育士間の連絡、引継ぎは漏れのないように行なう

- (7) 月2回の話し合いの時間をとり、一人ひとりの子どもの共通理解を図り、月間・個別指導計画等を作成する

4. 保護者との連携

(1) 朝の受け入れと降園

- ①一人ひとりに「おはようございます」と声をかけ保護者が安心して預けていけるよう明るく対応する
- ②家での朝の様子を聞くようにする
- ③保護者の前で不用意に子どもの話をしない

(2) 連絡帳

- ①その日の様子を毎日記入して伝える
- ②連絡事項は早い時間に確認し、忘れずに連絡し合う(体調、与薬、早退等)

(3) 信頼関係

- ①保護者との信頼関係が大切なので、常に謙虚に園での様子を伝え、連絡事項は漏れのないようにする
- ②園側の意見だけでなく、保護者の意見も受け止めながら、伝えなければならないことはしっかり伝える。また、どの保護者に対しても平等に接する
- ③保育士間の話し合いを密にし、保護者に対して統一した連絡ができるようにする
- ④新学期に個人面談をして、家庭環境、保護者の人柄を早く把握し、理解できるようにする

【健康管理】

1. 入園時に生育歴や入園前にかかった病気（てんかん、熱性けいれん、喘息、食物アレルギーなど）を把握し、看護師との連携を取り合いながら対応の仕方を話し合い連絡会で全体に伝える。
2. 朝の受け入れは、全身の様子（顔色、表情、傷など）を観察する。
また、保護者に声をかけたり、連絡帳をみて体調の変化がないか把握しいつもと様子が違う場合は、保育士間で知らせ合い、注意していく。
 - (1) 一人ひとりの健康状態に気を配り、異常を早めに発見できるようにする
 - ・機嫌が悪い ・顔色が悪い、赤い ・いつも元気な子がおとなしい
 - ・だるそうにしているようにみえる ・食欲がない 等以上の症状が見られた場合は、すぐに検温し適切な処置をする。
 - (2) 保護者より体調不良の連絡があった場合には、子どもの様子をこまめにチェックして行く。
 - (3) 病気以外でも気温の変化や寝不足、気持ちが不安定なこともあるので少し様子をみてから保護者に連絡する。
3. ケガや病気、不審な傷に対しては自己判断せず、園長・主任・看護師に相談して対処する。
※対応については職務編「けがの順次的対応について」参照
4. 流行性の病気が出た時は、看護師と保育士で確認し合い、保護者への連絡、対応をする。また、治って登園してきた時にも様子を見る。
(麻疹・おたふく・風疹・水痘・はやり目・頭じらみ・とびひ・インフルエンザ等)
5. 室内の温度と外の気温との差を適切に押さえ配慮する。(換気に注意)
※保育担当者の職務編参照
6. 気温に応じて衣服の調節をする。
7. 内科、歯科健診の時に、発達状態や病気の有無など日頃気になっている事を園医に相談する。また看護師と一緒に身体測定を行ない発育状態を確認する。

【基本的生活習慣】

1. 食事

～和やかな雰囲気作りを心がけ、食べることの楽しさを感じられるようにする～

- (1) こぼしながらでも自分で食べようとする気持ちを育てる
- (2) スプーン、フォーク、コップなどの正しい使い方を繰り返し教えていく
(スプーン、フォークは配る時に右手で持ちやすいように置き、左ききに関しては、家庭と連絡を取り、家庭の意向に沿うようにする)
- (3) 食べられない子どもや少食の子どもには、量を減らしたり励ましたりするが無理強いしない。また、保護者と連絡を取り合い、少しずつたべられるようにしていく
- (4) 1歳児は、1回の食事で十分食べられないため、午前・午後のおやつで補う。
- (5) 下痢等でおかゆを必要とする時は9:30までに給食室へ連絡する
- (6) 食事の仕方
 - ・深く椅子にかけ、正しい姿勢で食事ができるようにする
 - ・食後はおしぼりで手や口を自分で拭かせるが、保育士がきれいに仕上げる
 - ・噛めない子どもや口の中にためてしまう子どもは、「カミカミしようね」などと声をかけたり、小さくして与え、徐々に固いものに慣らしていく
 - ・食事中は椅子の上に立ったり、おかずや主食を汁に混ぜて遊んだり、出歩いたりしないようにさせる
- (7) 食事制限のある子どもは給食担当者や保護者と定期的に連絡を取りあう（牛乳、卵等）

2. 排泄

～自分から、または保育士に言葉をかけてもらいながらトイレに行き、
保育士が見守る中で自分で排泄できるようにする～

- (1) 1歳児は、月齢差、個人差があるので、一日中オムツをしている子ども、日中パンツで過ごし午睡のみオムツを使用している子どももいる。一人ひとりの発達に合わせて徐々に外していく。
- (2) オムツは、子どもの様子を見ながら2歳の誕生日を目安にはずし、トイレで排尿、排便できるように進める。
- (3) 夏はオムツが蒸れて汗ばみ、動きにくくなるので、できるだけパンツで過ごすようにする。
- (4) 一人ひとりの排尿の間隔をつかんでトイレに誘い、オマル、便器での排泄に無理なく慣れさせる。
- (5) 尿意を知らせたら誉めたり、励ましたりしてトイレで排泄できるようにしていく。
- (6) トイレで排尿できたら、女の子は拭いてやる。
- (7) オムツやパンツに大便をした場合は、ホットルペーパーで拭き取るか温水で洗い流し、清潔にする。
- (8) おもらしがなくなっても毎日オムツをしてくる子どもがいるので、保護者に働きかけ、パンツで登園してくるようにする。

3. 衣服

～簡単な衣服(パンツ、ズボン等)は一人で脱ぐことができるようになり、
手伝ってもらいながら一人で着るようになる～ (パンツをはく時はマットの上で)

- (1) 自分でしようとする気持ちが芽生えてきているので、子どもが自分で脱ぎ着しやすいものを用意してもらう。

① [1歳児に適した衣服]

- ・伸縮性があり薄手で身体が動きやすいもの
- ・下着は夏は吸湿性があり、冬は保温性があるものを真夏を除いて着るようにすすめる (半袖、ランニング、木綿のもの)
- ・子どもが着脱の意欲をなくすような衣類は避ける (オーバーオール等)

また、トレーニングパンツは厚く、上げ下ろしが困難なため脱ぎ着を練習するこの時期には適さない（普通の綿パンツがよい）

② [1歳児に適した靴]

- ・つま先に少し余裕があり、足によく合った靴
- ・履いたり、脱いだりしやすく、動きやすいもの

(2) 少しずつ自分でやろうとする気持ちが育ってくるので、やる気を損なわないようにする事が大切である。

①パンツの着脱を初めに練習し出来たら誉めて、出来た喜びを意欲につなげる

②やろうとする気持ちに行動が伴わない時期なので、保育士はタイミングを見計らって援助する

(3) 自分で選んだ服を着たがる子どもには、その気持ちを認める。（特に女の子に多い）

4. 睡眠

～落ち着いた雰囲気の中で十分眠れるようにする～

(1) その子どもに応じた寝かしつけ方で、優しくトントンしたり、「ねんねしようね」と言葉をかけたり、簡単な歌を歌ったりしながら、安心して眠りにつけるようにする。

(2) 季節に応じて、室温、換気、上掛けの調節に十分気を配る。

(3) 夏は扇風機、エアコンを使用するが直接身体に風があたらないように気をつける。（つけっぱなしに注意し、寝付いたら弱める）

・夏季

気温30℃以上の日はエアコンを使用する。ただし、外気温との差を考慮し、設定温度は27～28℃位にする（26℃以下にはしない）

・冬季

床暖房使用前、気温の低い時はエアコン（暖房）を使用する（室温の目安は20℃位）

- (4) スムーズに布団に入れるように、大好きな絵本を読んだり、身体に触れたりしてあげるとよい。
- (5) 寝入るまでの間、一人ひとりのくせや習慣は出来るだけ認めて、子どもの眠りやすい状態を作る。
- ・ おんぶや抱っこをすると落ち着いて眠れる子ども
 - ・ 指しゃぶりをしながら眠れる子ども
 - ・ お気に入りの人形やタオルを持って眠る子ども
- (6) 子どもが眠っている間も、保育士はその部屋から離れず、常に子どもを見守る。
- ①乳幼児突然死症候群（^{シズ}SIDS）の予防
- ・ 仰向けに寝かせる（うつ伏せ寝は避ける）
 - ・ 午睡している時は必ず保育士が同室し、子どもの顔色、呼吸状態に注意する
 - ・ 布団の中で暑すぎるのもよくない
- ②顔色が悪く、ぐったりしている場合（呼吸をしていない子を発見したら）
- ・ 周囲に助けを求め、蘇生法を始める
 - ・ 119番に通報し、救急車を呼ぶ
- (7) その日の子どもの体調や寝つきの悪い子については、その子どもに合わせて起こす時間を考慮する。
- (8) 目が覚めた子どもからトイレに誘い、別の部屋で遊ばせる。
- (9) 睡眠時間を連絡帳で知らせる。
- (10) 保育士は睡眠を妨げるような話し声に注意する。

5. 清潔

～清潔にする気持ちよさを感じ、大人の真似をしながら

だんだんと自分でしようとする気持ちを育てる～

- (1) 一緒に手を洗ったり教えたりしながら、手洗いの習慣をつける。
- ①食事の前の手洗い（うでまくり、石鹸の使い方、タオルの使い方を教える）
- ②排泄の後の手洗い（保育士は石鹸で手洗い消毒をする）

③外遊びの後の手洗い

- (2) 手や口を拭いてやれるようおしぼりやタオルを用意しておく。

※個人用の手拭きタオルは水曜日・金曜日、おしぼりは毎日取り替え清潔なものをいつでも使えるようにする。

- (3) 歯ブラシはよく水で洗い流し、殺菌保管庫に入れる。
- (4) 食後の歯磨きは一人ひとり、歯ブラシを持たせるが保育士が磨いてやる。
- (5) 鼻水、耳あか、爪、髪の毛などに気を配り、汚れている子どもには保護者にも働きかけ清潔にしてもらう。
- (6) 衣類も汗をかいたり食事をこぼしたりして汚れたらすぐに取り替えて、サッパリしたという気持ちを味合わせる。
- (7) 台拭きはピューラックスに30分つけ、その日のうちに干し日光消毒をする。
- (8) オムツやパンツの中で大便をした場合はホットルペーパーできれいに拭き取るか温水で洗い、清潔にする。

※ホットルペーパー…温かいおしりふき

- (9) オムツバケツは毎日洗い、日光消毒する。
- (10) 週末は布団、靴、帽子を家庭に持ち帰り、清潔にするよう働きかける。

【運動・身体発達】

月例	運動・身体発達	配慮事項
1 歳 ～ 1 歳 3 か月	・歩き始める ・階段をはって上る	・つまづいたり、滑ったりするので、床面の整理に気を配り、危険のないようにする（硬いブロック、積み木等） ・自分で上ろうとする気持ちを大切に見守りながらもすべったりすると身体のバランスを崩すので、すぐに補助できる位置について一緒に上る
1 歳 4 か月 ～ 1 歳 6 か月	・歩行の確立 1 歳 6 か月ではほぼ完成 ※早く歩いたから大人になって歩くのが上手なわけではない ・しゃがむ ・物を投げる ・積み木を 2 個重ねる	・活動が活発になるので、十分な休養がとれるように配慮する ・1 歳半までに歩けない場合は、注意してみていく ・平らな場所だけでなく、砂利道やスロープのある場所等、いろいろな所を歩く経験をする ・まわりに危険な物がないよう気を配り、しゃがんだ時に前後に転がりやすいので、気をつける ・何でも投げるので、危険なものは手の届くところに置かないように気をつけ、教えていく ・積み木を用意し保育士も一緒になって、くり返し喜んで遊べるようにする
1 歳 7 か月 ～ 1 歳 9 か月	・小走りができる ・手すりを持って階段を登る ・絵本を 2、3 頁一緒にめくる	・安全に気を配り、一緒に動いて楽しむ ・すぐに補助できる位置につき、見守りながら一緒に登る
1 歳 10 か月 ～ 2 歳	・低い所からとび降りる ・手すりを持って階段を登り降りする ・積み木を 5～6 個積み重ねる	・危険な物がないよう気を配ると共に、衝動的な動作が多くなるので、子どもから目を離さないようにする ・すぐに補助ができる位置で見守る ・積み木を重ねたり、くずしたりすることを喜ぶので、一緒にくり返し遊んで楽しめるようにする。高く積んだ積み木がくずれてケガをしないように気を配る

月例	運動・身体発達	配慮事項
2歳1か月 ～ 2歳3か月	・その場でジャンプする ・ボールをける ・物にぶら下がる	・ピョンピョンとぶことが楽しいので、音楽に合わせてとんだり、楽しく身体を動かせるような工夫をする ・相手をしてあげてを喜ぶので、一緒に楽しむようにする。ボールの上に乗ったり、他の子どもにぶつかったりしないよう、広い場所で、十分注意して遊ぶ ・ぶら下っても、油断をすると落ちて思わぬケガをするので、注意して見守る
2歳4か月 ～ 2歳6か月	・すべり台に登ったり、滑ったり ・転ばないで上手に走る ・積木を横に2つ、3つ並べる ・低い所から両足でとび降りる	・階段では必ずそばにつき、危険のないよう見守りながら一緒に楽しむ ・オモチャを持ったまま登ったり、後ろを向いたりしないようくり返し教えていく ・追いかっこをしたり、土管山に登ったりしながら、身体を動かす遊びを楽しめるようにする ・積み上げるだけでなく、横につなげて見立て遊びを一緒に楽しめるようにする ・危険な物が下にないか常に気を配る ・まだうまくとび降りられない子には、手を持ってあげるなど手助けをする
2歳7か月 ～ 2歳9か月	・両足でピョンピョンとぶ ・片足をあげてバランスをとる ・三輪車のかじをとって押して歩く ・上手投げで片手で握れる程の大きさのボールを投げる	・身体を動かすことが楽しくなってきたので、音楽に合わせたり、一緒に身体を動かして楽しむ ・両足でうまくとべない子どもには、手を持って一緒にとんだりして楽しむ ・リズム遊びをしながら、くり返し経験できるようにする ・バランスをくずしてしまうこともあるので、ハンドルを持つよう教え、見守ったり一緒に遊んだりする ・ボールの持ち方、投げ方を教え、相手をして一緒に楽しく遊ぶようにする
2歳10か月 ～ 3歳	・太鼓橋を渡る ・ジャングルジムの登り降りをする ・歩行の完成	・しっかりつかまって登るよう教え、すべらないようにそばで見守る ・ひとりで登ろうとする気持ちを大切に、しっかりつかまって一段ずつ登り降りするよう教え、危険のないよう必ず補助できる位置で見守る ・走る、歩く、とぶ、よじ登るなど基本的な運動を十分にとり入れる

【遊 び】

1. 室内遊び

室内遊び	配慮事項
〈運動遊び〉 ・いろいろな遊具で遊ぶ機会を多く持ち遊具に慣れる経験を大切にしながら運動機能を発達させる 〔室内用木製滑り台、マット、巧技台〕 〔平均台、トンネルくぐり、ボール等〕 ・全身を使ったりリズムの運動を保育士と一緒に楽しむ 〔ジャンプ(うさぎ) 四つんばい(お馬の親子) 高ばい(お馬) 歩く(あひる) 走る・バランス(とんぼのめがね・魚) ぶら下がり(お猿のかごや) 転がる(どんぐり) 腹ばいになって背をそらす(カメ)等〕 〈玩具〉 ・手、指を使った遊び…つまむ、差す、つかむ、つなげる、積むなどの経験をする 〔玉さし、追視玩具、穴通し、積木ブロック(井型ブロック、レゴブロック)等〕 ・手作りおもちゃ 〔手作りのぬくもりあるおもちゃで遊ぶ 似想遊び(アンパンマン、くま、うさぎ) タペストリー マラカス 魚の穴通し、穴落とし 軍手形指人形(青虫、動物、猫) 靴下パペット(トラ、犬、おかみ)等〕 ・日常生活の模倣遊びを楽しむ 〔お人形、ぬいぐるみ、おおいひも、エプロン バッグ、布団(人形用)、電話、車、電車等 ままごとセット(食べ物・お皿)等〕	・遊びがマンネリ化しないよう、多少抵抗感があっても挑戦してみようといった意欲や関心が持てるよう工夫し発展させる ・動きが活発になってきているので、すぐ補助できる位置で見守り、順番で使うことも知らせていく ・ピアノを弾く、歌を歌う等、楽しく全身機能を使った遊びが出来るようにする ・毎日の保育の中にリズム運動を取り入れ転倒時に手が出たり、自分の身体を支えたりできるようにしていく ・玩具の点検を定期的に行う ・発達段階をふまえ無理のないよう玩具を与えていく ・カーペットを敷いたり、畳の部屋に行かせたりなど環境を変えて遊びに変化をもたせる ・その物の遊び方を導入前に十分話し危険のないよう子どもから目を離さずに見守る ・おもちゃの取り扱いから、かみつきやひっかき等のトラブルにつながることも多いので十分気をつける ・経験させたい指先の遊び(スナップ、マジックテープ、ボタン、穴通し、穴落とし等)や似想遊び、認識遊びなどが出来るおもちゃを作る ・壊れやすかったり、口に入れやすい物は誤飲等に十分注意しながら一緒に遊ぶ ・コーナー別に玩具を用意し好きな遊びを選ばせる ・子どもたちが自分で出し入れできる場所に玩具を用意し、探索活動を十分経験させる ・保育士が仲立ちとなり、友達と一緒に遊ぶことを意図的に取り入れて、徐々に子ども同士で「ごっこ遊び」へと発展していけるようにする

室内遊び	配慮事項
〈歌と手遊び・リズム遊び〉 ・子どもとの触れ合いを深めたり、手や指の運動やリズムミカルな表現を楽しむ 〔パン屋さん、エイトマン、一丁目のどら猫、魔法の杖、ひげじいさん、グーチョキパー、赤ちゃん赤ちゃん、野菜の歌、山小屋一軒、でこやまでこちゃん等〕 〈楽器遊び〉 ・色々な楽器がある事を知り、それぞれの音を楽しむ 〈造形遊び〉 ・色々な素材を使い、月齢に合わせて無理なく造形遊びを楽しむ ・マジック、クレヨン、絵の具（タンボ筆、絵筆、※綿棒筆）を使ってなぐり描きを楽しむ ※綿棒を束ねて作ったもの ・様々な素材の紙を丸めたり、ちぎったりして遊ぶ ・シールをはがしたり貼ったりして遊ぶ ・裏表がわかり、人差し指で糊をつけて貼る ・油粘土、紙粘土の感触を楽しみながら丸めたり、ちぎったりして遊ぶ ・スタンプ遊びを楽しむ 〔・野菜スタンプ・ブロック等のおもちゃ ・手作りスタンプ等〕 ・ハサミで1回切りをする	・歌を聞いたり、手足を動かして表現する快よさを感じさせながら、くり返し行うことで歌や手遊びを自然に覚え、おもしろさが分かっていくようにする ・新しい曲も積極的にとり入れるようにする ・保育士と一緒に音の高低、大小、ひびきなどの快よさを感じられるようにする ・友達を叩いたり、楽器を投げたりしないように教える ・落ちついた雰囲気の中で取り組めるように少人数に分けて行う ・導入する前に使い方や危険な点をよく話してから行う ・子どもの製作意欲をそそるような言葉かけをしたり、できあがった作品は室内に展示する ・持ち方を教えながら、自由に伸び伸びとなぐり描きをする経験をたくさんさせる ・保育士がやって見せたり、子どもの手をとって方法を教えたりしながら、できた喜びや楽しさが味わえるようにする ・素材によっては手を切ってしまうので、ケガのないよう気をつける ・はがして貼る作業を保育士が見せたり一緒に行ったりして、シールの表裏がわかり貼る楽しさを味わえるようにする ・糊を人差し指でとり糊づけをし、貼る作業をくり返し一緒に行い糊の量や、ぬり方、貼り方を丁寧に教える ・口に入れないよう気をつける ・感触や手が汚れる事を嫌がる子どもに対して無理強いをせず、保育士と一緒に少しずつ経験しながら慣れるようにしていく ・濡れタオルを机の上に用意する(手拭き用) ・保育士が作って見せながら粘土のおもしろさを伝える ・色々な形のスタンプ遊びが楽しめるようにスタンプの材料を工夫する ・ハサミの安全な使い方を教えながら、保育士と一緒に切る ・少人数ずつで行い、ケガのないよう気をつける

2. 戸外遊び

戸外遊び	配慮事項
〈戸外遊び〉 ・ 砂、土、水にふれる経験をたくさんさせる (砂山、型抜き、砂だんご、川等) 〈固定遊具〉 ・ すべり台やブランコ、大型遊具で沢山遊ぶ 〈乗り物・ボール〉 ・ 乗り物に乗って遊ぶ (いろいろな形の三輪車、車等) ・ ボールを投げたり、蹴ったりして遊ぶ 〈その他〉 ・ 保育士と一緒に走ったり、追いかけてっこをした りする	・ 保育士がカップでプリンを作ったり、山を作ったりして見せて、子どもが真似しながら遊びを覚え楽しめるようにしていく ・ 一つの遊びにある程度集中して遊び込めているかを見極め、遊べない子どもへの言葉をかけながら、関わりを持って遊ぶようにする ・ 水遊びを春～夏にかけて十分経験させ、夏のプール遊びへと発展できるようにする ・ 玩具や砂を投げたりなめたりしないよう教える ・ 砂のついた手は砂をよく払ってから、洗うように教える ・ 遊具にふれる経験を大切にしながら子どもの自主性に応じて遊べるように補助する ・ 遊具の安全な遊び方を教え、危険のないようにする ・ 衝動的な動作が多くなるので、子どもから目を離さないように注意する ・ ブランコに乗りゆられる経験が出来るようにする ・ ペダルなし三輪車のこぎ方を教える。また、地面に両足がつかない高さの三輪車はバランスを崩しやすいので、そばにつき補助する ・ ボールや玩具を使って保育士と遊ぶ楽しさを十分経験できるようにする ・ 1対1でボールを転がしたり、投げたり、蹴ったりして真似して遊べるようにする ・ 走って遊ぶ機会を作る 坂道を登り降りをし、全身のバランスをとったり、スピードを落とす歩き方も経験できるようにする

3. 水遊び・プール遊び

(1) 準備

- ・タライに消毒槽をつくる（シーズン初めに塩素濃度を確認する。消毒槽の大きさによってピューラックスの量を確認する）
- ・プールに塩素は入れない
- ・温水シャワーの電源、温度の確認をする
- ・足ふきマット、バスタオル、着替え、パンツまたはオムツを用意する

(2) プールに入る前の確認

- ・プールカードを確認する
- ・プールカードに○印がついていても、もう一度保育士は健康チェックをする
- ・子どもの顔色に気をつける（鼻水、咳、目やに、とびひ等）病気上がりの子は特に注意する

①温水シャワーを浴びて、しっかり汗を流す	・タライの消毒槽の水は全員の消毒が終わったら処分する
②タライの消毒槽におしりをつける	・嫌がる子どもは無理強いせず、水になれることが大切なので少しずつ慣らしていく（大きいプールを嫌がる子どもには別の小さいビニールプールやタライを用意する）
③水に慣れ、水遊びを楽しむ ・お茶碗、じょうろ、バケツ、空き容器等で遊ぶ ・トンネルくぐり（足、ホース、シャワー）えんや桃の木、アヒル歩き、ワニ歩き、お馬歩き、カエルジャンプ、保育士のお腹や背に乗って遊ぶ等	・水の冷たさが苦手な子どももいるので、ぬるま湯からはじめる ・常に保育士は、子どもの人数を確認しておく ・予想できない事故が起こる事があるので、目を離さないようにする ・水に慣れ楽しめるように保育士が抱っこしてプールに入ったり、一緒におもちゃで遊んだりする ・入ってる途中、顔色が悪かったり、寒そうにしている子どもはプールから出し、様子をみていく ・プールから上がる時は全員出たか漏れのないように確認する
④プールから上がるとき	・シャワーを浴び、身体をきれいにする ・身体をふき、着替えを済ませる

【言葉】

言葉	配慮事項
・物と言葉が結びついていくように絵や写真を利用して遊ぶ ※1歳6か月で単語5個以上 ・絵本や紙芝居を楽しんで見たり、聞いたりくり返しのある言葉の模倣を楽しむ ・保育士と一緒に簡単な「ごっこ遊び」をするなかで、言葉のやりとりを楽しむ ・絵カードや絵本などを用いて二語文や三語文で話をする機会を多く持ち助詞が使えるようにする ・身振りや片言で周囲に様々な要求を表現しようとする ・日常生活の中で保育士や友達の話の聞き分け理解できるようにする ・「これなあに」と指さしをしながら、次々と質問したり、身のまわりのことを言葉で表現しようとする	・生活や遊びの中で子どものつぶやきに耳を傾け、子どもの気持ちを大切にし、言葉を楽しんで使うようにする ・覚えた言葉を楽しんで使う場を多く持たせるようにする ・複数の保育士がいるため、一人ひとりの発達に合わせ、時には1対1で言葉のやりとりを楽しみながら、言葉の修得をはかる ・保育士や友達と一緒に話を聞いたり絵本を見たりする楽しさが味わえるように一人ひとりの顔を見て語りかける ・子どもが何を要求しているのか甘えたいのかなど理解して言葉で優しくやりとりする ・幼児語や誤った言葉の使い方をするが、耳を傾けたり共感することが大切で言い直しをさせたり何回も聞きなおしをしないようにする ・ごっこ遊びが盛んになるので子どもの気持ちに寄り添いながら保育士と子ども、子ども同士の言葉のやりとりが楽しめるようにする ・わかりやすく、はっきりとした言葉で受け応える。また声の大きさにも注意する ・一語一句に子どもは耳を傾けているので正しい言葉で優しく語りかける。また保育士同士の会話にも気をつける ・乱暴な言葉を使ってみたい気持ちを受け止めながら、よくない言葉だということを教えていく

【自我・社会性】

月齢	自我・社会性	配慮事項
1歳半 ～	・ものごとへの興味が高まり何でも自分で試そうとする意欲が見られる ・保育士と安定した関係のもとで一人遊びを楽しんだり他児と少しの時間関わって遊ぶようになる（友だちと手をつなぐ、大きい子についていき遊んでもらえる、「じゅんばん、じゅんばん」を体験する） ・かみつく、押す、だだをこねる、髪の毛を引っ張ったりする等の姿が見られる ・自分の持ち物に対する執着も強くなってくる ・自分の席が決まってきて他児がその席を占めるのが許せなかったり、他の子が母や好きな保育士のひざに乗ったりすると押しのける	・行動範囲が広がり事故につながる危険な時期であるので目を離さず危険から守る。大人から見ると困ったことやいたずらでも子どもにとっては貴重な体験になるので禁止だけでなく経験できる機会を確保する ・個人差が大きいので一人遊びを見守ったり一緒に遊んだり、その子に合わせた関わり方をする ・自分勝手な自己主張をしたり欲張りになったりしてトラブルがふえてくるが、これは、自我が拡大していく過程では当然なことなので禁止したり阻止したりしないでその子の思いを受け止めてあげるようにする
2歳 前後	・自我意識が芽生え思い通りにならないいらだちをかんしゃくや頑固な行動となって表すことがある ・他児の持っている玩具や遊びに興味をひかれて関わろうとすることが多いため物の取り合いによりけんかがしばしばおきる ・自分の意思でやりたいので何でも一応「いや」という姿が見られる ・自分の能力にあまる行動をして失敗し、大暴れすることもある	・まだ感情のコントロールが難しいのでお互いのことばを代弁したり補ったりして仲立ちをする ・玩具を十分用意したり遊びの工夫をする ・お互いの所有の観念が強くなり自分の所有権を一方的に主張するためであり欲張りや意地悪でなくこの年齢の特徴だということを理解して無理に抑えたり我慢させたりしない ・子どもの行為だけでなくその動機や心情を察し、寛容な気持ちで接するよう心がける。大騒ぎしている時はそっとしておき、落ち着いた時に話を聞いて気持ちを受け入れるが、いけないことはきっぱりと禁止する

【環境】

1. 室内環境

- (1) 子どもが思わず触ってみたい、動かしてみたい、見てみたいなど興味や好奇心を持つような絵本、玩具、また日常家庭で使用する生活用具を豊富に用意する。
- (2) メダカや金魚などを飼ったり、花を飾ったりして身近な動物に興味や好奇心を持てるようにする。
- (3) 季節に応じた壁面飾りや自然物などを飾ることにより季節感を味わえるようにする。
- (4) 小物や玩具の配置等を工夫し、変化に富んだ環境設定をする。
- (5) 探索活動が盛んになるので、十分活動ができるように危険を取り除く。

2. 散歩

- ・各園の園庭や近くの公園などに出かけていき、戸外への開放的な気分を楽しむようにする
 - ・水、砂、土、植物などの自然物や小動物を見たり触れたりする経験や、乗り物を見るなどの経験から外界への関心を広げる
 - ・砂利道、坂道、でこぼこ道などが歩ける場所へ行く
- (1) 準備と安全対策
 - ①散歩の準備は手際よくしておく
 - ・ワゴン車
 - ・保育士用のお散歩リュック
(園用の着替えとオムツ ・おしりふき ・ビニール袋 ・ティッシュ)
 - ・救急バッグ
 - ・氷または保冷剤と濡れタオル・おんぶひも・ペットボトルに水をいれたもの・携帯電話・防犯ベル
 - ・子ども用のお散歩リュック (パンツ ・ズボン ・ビニール袋)
 - ・時によりおやつを用意する

- ・排泄を済ませ、帽子をかぶせてから、出掛ける

②ワゴン車に乗って出掛けるが、歩きたがる子どもはなるべく歩かせる

- ・保育士は1対1で必ず手をつなぎ、道路の内側を歩かせる

- ・後半、発達に合わせて散歩リングにつかまって歩く

③行き先は、事務室へ必ず連絡してから出掛ける

(2) 散歩コース

- ・線路跡、亀の道、第三なでしこ保育園付近、稲荷神社

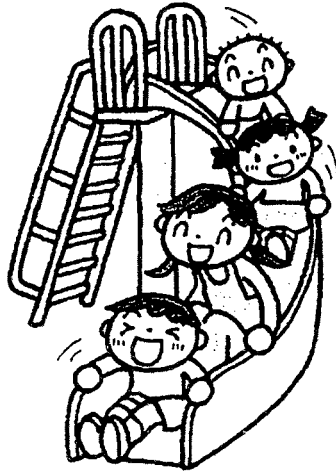
- ・なでしこ保育園、第二なでしこ保育園、第三なでしこ保育園の園庭…固定遊具で遊ぶ

- ・園周辺…小動物や自然物を見たり触れたりする、外の様子を見に行き気分転換を図る

【長時間保育への配慮】

1. 午睡や午後のおやつを十分とれるよう配慮する。
2. 長時間になるので甘えが多くなったりぐずったりするが、受け止めて安心して過ごせるようにする。
3. 朝夕の保育士間の引き継ぎをしっかりとる。
 - (1) 健康状態（体温、排泄、食欲、睡眠）
 - (2) 機嫌、顔つき
 - (3) 持ち物、衣類等
 - (4) 送迎者の変更
 - (5) 特別事項（ケガ、トラブル等）
4. 早朝の登園で朝食を摂らずに持参してくる子どもや睡眠不足の子どもに対して状況に合わせた対応をする。
5. 6:00以降は異年齢が同じ保育室になるので、年齢に合わせた遊びや少人数で遊べるおもちゃを用意し、落ちついた雰囲気の中でゆったり過ごせるように工夫する。
6. 時間が遅くなるにつれ、他児のお迎えが来たり、外が暗くなったりして不安になってしまう子どももいるので抱っこや1対1で遊ぶ等、不安を取り除けるようにする。
7. 迎えに来る保護者の気持ちを察し、笑顔で「お疲れ様です」、「お帰りなさい」等、声をかけ、可能な限り一人ひとりの様子を添えて「さようなら」の挨拶をする。
8. お迎えがいつもと違う場合は手さげ袋にオムツや、持ち帰る物を用意して戸惑わないようにしておく。

3 歳 児



【発達の目安】

1. 保育士にさまざまな欲求を受け止めてもらいながら、安心感や信頼感を深め安定した生活が送れるようになる。
2. 依存から自立する時期なので、保育士に優しく受け止めてもらいながら身の回りのことが自分でできるようになる。
3. 保育士や友達と遊びながら、その行動を観たり模倣して遊びを広げる。
4. やってはいけないことが分かり、我慢ができる。
5. 保育士の話をよく聞けるようになり、したいことやして欲しいことが言えるようになる。
6. 固定遊具や用具などを使った遊びや運動を十分経験し、身体を動かすことを楽しむ。

【担当保育士の配慮と子どもとの関わり】

1. 子どもとの関わり

- (1) 一人ひとりの子どもの気持ちを受け止め、保育士との信頼関係をつくり安定した気持ちの中で、生活できるようにする。そして保育士が仲立ちとなり触れ合いの機会を多く持てるようにする。
- (2) 自分の事は自分でしようとする姿がみられるので手助けをしながら出来た時は、誉めてあげ自信を持たせる。
- (3) 経験不足で出来ない子ども、依存心の強い子どもには簡単な事から保育士といっしょにやりながら、自分で出来たという満足感を持てるようにして意欲につなげていく。
- (4) おとなしい子どもや、言葉の少ない子どもには特に気をつけ声をかけたり、手をつないだりして自分の思いが出せるように援助する。
- (5) 生活の中での約束をくり返し教え、自分で気付けるようにしていく。
- (6) クラス活動をする時も、保育士は大きな声で子どもを動かそうとしないで豊かな表情で分かりやすく話し子どもが楽しく意欲的に参加できるようにする。

2. 新学期のポイント

- (1) クラスの子どもの名前を早く覚える。
- (2) 新入児、在園児への配慮。
 - ①初めて集団生活を経験する子どもが多いので不安を取り除けるよう声をかけたりスキンシップをとりながら一人ひとりに対応する
 - ②在園児もクラス担任や保育室が変わる為、不安になる子どもが多いので子どもの表情の変化に気づき対応する
 - ③朝の受け入れは一人ひとりに声をかけ、担任や顔なじみの保育士がする
- (3) 子どもの不安を取り除くためには次の事に留意する。
 - ①優しい笑顔、優しい気持ち、優しい言葉で接する
 - ②子どもの話は優しく受け止め十分聞いてやる

- ③出来たときにはオーバーな位にほめ、出来ない時には一緒に手伝いながら教えていく
- ④保育園は楽しい所だと感じられるように工夫する
- ・子どもと一緒に沢山遊ぶ
 - ・好きな遊びが見つけれられるよう手助けする
 - ・手遊びや歌をうたったり、絵本、紙芝居を沢山読んでやる
- (4) 新入児も多いので子どもにとって担任は保護者以外に初めて頼れる存在だという自覚を持ち一人ひとりを受け止めていく。
- (5) 保護者の不安を取り除くには、子どもの様子をこまめに知らせるが保護者の不安をつのらせるような言い方はさける。
- (6) 個人面談を行ない一人ひとりの子どもの家庭環境と保護者の人柄を早く把握し理解できるようにする。問題があった場合はその都度平行クラスの担任、主任、園長に相談し、全体に伝えなくてはならない事は職員会で伝える。

3. 平行クラスのチームワーク

- (1) 他のクラスとの足並みを無理に揃えようとせず、担当クラスの子どもの様子を十分把握して活動を進めていく。
- (2) 困った事が生じた場合、自分だけで解決しようとしなくて他のクラスの担任や主任にも相談する。
- (3) 保育士間で子どもの様子を伝え合いながら常に情報交換をする。
- クラス数が多いので内容によってクラスごとの活動にするか、園ごとまたは全体にするか話し合いをしながら臨機応変に進めていく。

4. 保護者との連携

- (1) 子どもの様子を伝える。
- ①降園時などに直接話をする
 - ②園側の意見だけではなく保護者の意見も受け止めながら、伝えなければならないことはしっかり伝え、また、どの保護者に対しても平等に接する

- ③連絡帳やクラスだよりを利用して子どもやクラスの様子を伝える
- (2) 新学期に個人面談の機会をつくり、家庭環境、保護者の様子を知る機会にする。
- (3) 連絡帳をできるだけ活用する。読んだら確認印やサインをし必ず返事を添える。

【健 康】

1. 健康管理

(1) 入園時に生育歴や入園前にかかった病気（てんかん、熱性けいれん、喘息、食物アレルギーなど）を把握し、看護師との連携を取り合いながら対応の仕方を話し合い職員全体に伝える。

(2) 朝の受け入れは、全身の様子（顔色、表情、傷など）を観察する。

①一人ひとりの健康状態に気を配り、異常を早めに発見できるようにする。

- ・食欲がない　・顔色が悪い、赤い　・いつも元気な子がおとなしい
- ・だるそうにしている　等

以上の症状が見られた場合は、すぐに検温し適切な処置をする

②保護者より体調不良の連絡があった場合には子どもの様子をこまめにチェックする

(3) ケガや病気、不審な傷に対しては自己判断せず、園長、主任、看護師に相談して対処する。

※対応については職務編「けがの順次的対応について」参照

(4) 流行性の病気がでたときは、看護師と保育士で確認し合い保護者への連絡、対応をする。また、治って登園してきた時にも様子を見る。（麻疹・おたふく・風疹・水痘・はやり目・頭じらみ・とびひ・インフルエンザ等）

(5) 内科、歯科健診の時に発達状態や、病気の有無など日頃気になっている事を園医に相談する。

(6) 看護師と一緒に身体測定を行ない発育状態を確認する。

2. 食育活動

(1) 様々な体験を通して植物の成長、実り、収穫、調理に興味を持ち食への関心を深める。

(2) 本物を見たり触ったりして、色々な食材の本来の姿や調理後との違いを知り、食べる意欲を育てる。

(3) 実践

①散歩をしながら 季節毎に畑で育っていく野菜の様子を見て名前を覚えたり
成長の過程を見る

②さつま芋掘り

- ・さつま芋の収穫を通し、葉、ツル、根（芋）がある事を知り収穫を楽しむ
- ・クッキングへの楽しみにつなげる

③親子クッキング

自分達で掘ったさつま芋を使って茶巾絞りを作ったり、とん汁を作ってもら
う体験を通して食の楽しさを味わう

④とうもろこしの皮むき

おやつ作りの手伝いという事を知り、皮むきの体験を楽しむ

⑤園内にある季節の果実を収穫し、楽しみ味わう（さくらんぼ、プラム、柿、 キウイフルーツ）

柿…甘い柿と渋い柿があることを知り、渋みを体験する
…渋柿をチップにして甘く変化する不思議さを感じる

⑥増えるわかめ・鯖の三枚おろし

普段食べている食材の本来の姿と調理後の形を知り、食への関心を深める

行事食…季節毎の行事の意味を知り、食事を通して行事を楽しむ

- ・七夕（七夕スープ）　・十五夜（フワフワ団子）
- ・クリスマス、お別れ会（バイキング）
- ・お餅つき（杵を持って餅をつく体験をする）
- ・節分（鬼ごはん、けんちん汁）

3. 基本的生活習慣

(1) 食事

①食事のマナー

- ・食事前はトイレに行き、食事中はなるべくトイレに立たないようにする
- ・食事やおやつ後はおしぼりで口のまわりや手をよく拭き仕上げは保育士が見る
- ・椅子に座り楽しく食事をする
- ・箸やおしぼりで遊ばないようにする

②給食の準備

- ・カバンを椅子の上において用意する
- ・ランチョンマットの上にお弁当、おかず等を置く

③当番の仕事

- ・子どもの様子を見ながら開始する
- ・おかずを配る
- ・「いただきます」の挨拶をする

④食べる時の配慮事項

- ・楽しく食事するために、時々テーブルの位置を変えたり花を飾ったり、暖かい日には外廊下や庭で食べたり、環境設定をする
- ・楽しい雰囲気の中で、自分で食事をしようとする気持ちをもてるようにする
- ・箸の正しい持ち方と食器の持ち方を教えると共に家庭にも働きかける
- ・正しい姿勢で食べられるようにし、こぼさないで食べられるよう働きかける
- ・好き嫌いがはっきりしてくるが、個人差があるので様子を見ながら量を加減し少しずつでも食べられるように働きかけていく
- ・保育士も好き嫌いをなくし、子どもと一緒に何でも食べるようにする
- ・主食、副食、汁物を偏らずに食べられるようにする
- ・いつもより残す量が多い場合は保護者に知らせる

- ・食べられないときは自分から言えるように子どもたちによく話す

⑤片付け

- ・食後は食器、コップ、おしぼりを所定の場所におく
- ・ランチョンマットはたたんでビニール袋にしまう
(おやつ時は必要に応じて皿やペーパーナプキンを使用する)
- ・弁当箱、箸をカバンにしまう
- ・この年齢に片付けが習慣付けられることが大切なので、出来ない子に繰り返し教えていく。カバンの中を確認(新学期は毎日)

⑥食後の過ごし方

- ・ままごとやブロック等で、ゆったりと過ごせるようにする(後期は粘土、お絵描きも)

⑦保育士の雑務

- ・残飯は専用のバケツに集め、食器は食べ残しもきれいにして給食室に返す
- ・ほぼ全員が食べ終わったら保育士が片付けを始め、床を水拭きして部屋を整える
- ・台ふきん、おしぼりは桶の中で洗い固く絞る
- ・台ふきん、雑巾は毎日陽に当てて乾かす
- ・食事、おやつの前後は必ず台ふきんできれいに机を拭く
- ・コップを置くお盆とふきんは毎日きれいにする
- ・コップ用のお盆は給食準備時に給食室へ取りに行き、おやつ後返して管理は給食室にお願いする

(2) 排泄…トイレは適宜一人で行き、排泄を自分でする。

①トイレの使い方を教える

- ・男の子は小便器の中におしっこをするように教える
- ・女の子はパンツを足首まで下ろしてから排泄するように話し、トイレットペーパーの使い方、量などを教えていく
- ・排泄が済んだら水を流すように教え、石鹸で手を洗い、タオルで拭けるよ

うにする

- ②自分からトイレに行けない子どもには一緒について行き、安心感を持たせる
- ③おもらししてしまったら、自分で言えるように優しく話し、気持ちを傷つけないよう、気付かれない場所に取り替えてやる
- ④失敗の多い子どもは時間を見計らってトイレに行くよう声を掛けまた、着替えを用意してもらうよう家庭に働きかける
- ⑤大便是、初めは拭いてやるが、教えながら少しずつ自分でさせるようにし、最終的には自分で拭けるようにする
- ⑥個人面談で排泄の様子を聞いて紙パンツを着用している子は、はずすようすすめていく
- ⑦トイレ用手拭タオルはこまめに取り替える

(3) 衣服…衣服の着替えが自分で出来るようにする。

- ①自分でやろうとする意欲を損なわない為に着脱しやすい服を用意してもらう。下着は夏は吸湿性があり、冬は保温性があるものを真夏を除いて着るようにすすめる。(半袖、ランニング、木綿のもの)

良い例（着やすいもの）		悪い例（着づらいもの）	
Tシャツ	ポロシャツ	オーバーオール	ジャンパースカート
トレーナー	ゴムズボン	ボタンダウンのシャツ	ひもぐつ
半ズボン	キュロット	後ろボタンのもの	ブーツ

- ②着脱の仕方、たたみ方、裏返しの仕方を教え、家庭にも働きかける
 - ・裏返し、前後を間違えて着ている子どもには間違いを気付かせ、一緒に直すようにする
 - ・下着やシャツがおなかのまわりから出ていないかを確認し、少しずつ自分で出来るようにする
 - ・園児服（上着）の着脱ができるようにする
- ③年間を通して薄着で過ごせるように心がけ、特に冬場は厚着になり過ぎない

ように気をつける

- ・衣類の調節が出来るよう保育士は声をかけていく
- ・ジャンパーのファスナー、ボタンは安全の為、必ずしめる
- ・脱いだコートの管理は各クラスで工夫する

- ④自分の靴は下駄箱にしまうように促し、靴の左右の間違いには気付かせ、直すように声をかけていく

※保護者にも働きかける…左右で一つになる絵を描く、内側に印をつける等

- ⑤紫外線の悪影響を考え、直射日光を避けるため、外遊びの時は園指定のカラー帽子を必ずかぶる

- ⑥子どもの衣服や持ち物について、クラス担任が責任を持って管理する
(衣類、くつ下、靴、帽子、布団、タオルケット等)

(4) 睡眠…落ち着いた雰囲気の中で嫌がらずに休息をする。

- ①昼寝をする部屋はカーテンをしめ、季節に応じて風通しをよくしたり、室内の温度を調節する

夏場、扇風機・冷房を使用するが、直接身体に風があたらないように気をつける(つけっぱなしに注意をし、寝付いたら弱める)

- ・夏季 気温30℃以上の日はクーラーを使用する。ただし、外気温との差を考慮し、設定温度は27～28℃位にする(26℃以下にはしない)

- ・冬季 床暖房開始前、気温の低い時はエアコン(暖房)を使用する(室温の目安は20℃位)

- ②新学期は園生活に「慣れない」「眠れない」「暗いのが嫌」といったことで昼寝を嫌がる子どもがいるので、安心して休息が出来るように一人ひとりの不安を取り除くような対応をする

- ③昼寝前には絵本、紙芝居などで気持ちを落ちつかせる

- ④指しゃぶり、自分のタオルを抱える等、くせのある子には、側に行って添い寝をしたりトントンと優しくたたいて安心して眠れるように配慮し、少しずつはせるようにしていく

- ⑤昼寝中の室内温度に気をつけ、寝つきやすいように静かに子守歌を歌ったりお話をしたりする
- ⑥眠れない子どもや昼寝を嫌がる子どもについては、一人ひとりの様子に応じ、少しでも横になり休息できるようにする。どうしても嫌がる場合は無理をさせないで別室で遊ばせる
- ⑦体調の悪い子どもについては、無理に起こさないで少し長めに寝かせる。その場合は必ず目の届くところにいる
- ⑧寝付いてからも汗をかいたり、布団をはいだりするのでこまめにみる
- ⑨おねしょをした場合は、すぐに着替えをさせ不快感を取り除く
 - ・汚れたシーツは家に持ち帰らせ布団は園で干す
 - ・お友達の布団を汚した場合は園で洗う
- ⑩寝起きの悪い子どもはおんぶ、だっこ等をして心地よく起きられるようにする
- ⑪週末には、布団やタオルケットを持ち帰り、干してもらうようにする
また、掛け布団は季節に応じて変えてもらうよう働きかける
- ⑫パジャマのかわりに毎日着替えを1セット用意してもらう
前後がはっきりしているもの着やすいもの、身体を締め付けない服を用意してもらうよう保護者に働きかける

(5) 清潔

- ①外遊びの後、給食、おやつの前、排泄後は手洗いの習慣をつける
- ②手の洗い方については保育士の洗い方の見本をみせて説明をする
 - ・水で濡らしてから石鹸をつける
 - ・手の甲、指の間をきれいに洗い流す
 - ・水を切ってから自分の手拭タオルで拭く
- ③食後の歯磨きを習慣づける（保育士自身が意識を持って子どもたちに働きかけていく）
 - ・歯磨き指導をする（個人指導）は6月頃から始める。最初は看護師に指導してもらう

- ・ 歯磨きカレンダーを配布し翌月提出してもらい家庭でのハミガキ状況を把握する

④歯ブラシの管理

- ・ 歯ブラシで遊ばないように注意する（机、流し、鏡をこすったりしない）
- ・ 歯ブラシを口にくわえて出歩かない
- ・ 歯ブラシを忘れがちな子どもや古くなったものを使っている子どもに対しては家庭に働きかけていく

⑤おしぼりは食前に濡らし、食後はきれいにすすいでおく

※おしぼりは固く絞る

⑥台ふきは毎日の掃除の時間、ピューラックスに30分つけ、その日のうちに干し日光消毒をする

⑦手拭タオルは、水、金曜日に持ち帰る

⑧鼻水が出たら、出ていることやかみかたを教える

⑨泥んこ遊び等で汚れた場合は身体をきれいにお湯で洗い流す。汚れた衣類や靴は水洗いし持ち帰す。大勢の場合は洗濯機を利用する

⑩汚れたり汗をかいた場合は清潔な衣服に着替える

4. 運動・身体発達

運動・身体発達	配慮事項
〈歩く〉 ・坂道や階段の昇り降り、また足元が多少不安定な所でも歩ける	・しっかり歩ける力をつけるため、公園など遠出の散歩に出かける。(起伏のある所で遊ぶ)
〈走る〉 ・上手に走れる ・直線や曲線の上を上手に走ることができる	・カラーコーンを利用し、直線コースを作ってたくさん走る ・ライン引きや長縄で曲線やジグザグの線を作り遊ばせる(へびじゃんけん、etc.)
〈跳ぶ〉 ・スキップや「けんけんぱ」などができるようになる ・高さのある所から両足をそろえてとび降りる ・大人が動かした縄(波・へび・まわす)をとぶことができる	・ライン引きで地面に、「けんぱ」のリズムに合わせた円を描き、楽しめるよう工夫する ・リズム遊びや巧技台を使った遊びを繰り返し経験できるようにする ・子どもが跳びやすいように、長縄を回したり、動かしたり、いっしょに跳んでタイミングをつかめるようにする
〈投げる・受ける・蹴る〉 ・目標に向かって投げる ・転がってきたボールや大人が下手投げで投げたボールを両腕で受ける ・止まったボールを蹴る	・保育士と一対一でボールを蹴ったり、投げ合ったりして楽しめるようにする
〈バランス・転がす〉 ・片足で立つことができる(3～5秒) ・一本橋(巧技台)をバランスをとってカニ歩きができる(高さ50cm) ・マット上を横転ができる	・高さのある幅の狭い所を歩いたり、わたったりしながら平衡感覚を養う ・マットを長くつなぎ(2～3枚)、身体を伸ばしてマットから落ちないで転がれるようにする
〈泳ぐ〉 ・水に顔をつけることができる	・プールに慣れ水遊びを楽しめるよう、嫌がる子どもには無理をさせず少しずつ慣らししていく ・水かけ、ビー玉ひろい、ワニ歩きなどプールの中で楽しめる遊びを工夫し、徐々に顔つけが出来るようにしていく

運動・身体発達	配慮事項
〈ぶら下がる、その他〉 ・鉄棒で前まわり、跳びつき前まわりができる ・のぼり棒に自分で跳びついて、10秒間つかまっていられる ・ブランコで振るためのタイミングがとれる ・三輪車のかじをとって押したり歩いたりペダルをこぐ	・鉄棒の正しい握り方を教え、補助すると共に恐怖心を取り除く ・日常生活の中で、固定遊具で遊ぶ機会を繰り返し取り入れ、無理なく経験させる ※しっかりぶらさがれるようになったら、補助をして、逆あがりも経験する
〈手指操作〉 ・両手の指先を協応させ、使う	・積み木、折り紙、はさみ、ボタンはめ、造形活動等、日常生活の中に意図的に取り入れて行く
〈リズム運動・育てたい力〉 ・うさぎ（両足でジャンプする力、つま先でジャンプ、リズムカルに身体を動かす） ・とんぼ（走る、バランス感覚） ・馬、高馬（腕の支持力） ・ワニ（腕の支持力） ・どんぐり（回転する力、音の変化に反応する） ・あひる（歩く、バランス感覚） ・かめ（バランス感覚、柔軟性） ・舟（バランス感覚、柔軟性） ・スキップ（バランス感覚） ・雑巾がけ（腕の力とバランス）	・年間を通して保育の中に取り入れ、運動発達を促す ・日々の経験がマンネリ化したり、身体を鍛えるという事だけにとらわれず、楽しく経験できるように保育士は工夫する ・最初は乾いた雑巾でコツを教える ・腕力、脚力のバランスのよくない子どもはアゴ、おでこを床にぶつけやすいので注意する
その他の配慮 (1) 子どもが容易にできる事だけを体験させるのではなく子どもにとって“ちょっと難しい”という事にも挑戦する機会をつくり出来た時の「やった」という達成感を味わえるようにする。また、保育士は挑戦する気持ちを十分に受け止め達成感を共感できるようにする。 (2) 保育士が意識を持ち身体を使って一緒に遊びながら色々な事を経験させる。 (3) 体操教室で指導を受けたことは、続けて保育に取り入れていく。また、講師との勉強会を行い日常の保育運動遊びに役立てる。 (4) 用具（マット、鉄棒、巧技台等）の安全な使い方を教え危険のないようにする。	

【人間関係】

1. 友達作り

(1) 子どもの姿

- ①保育士との信頼関係ができて友達に対しての意識が芽生えてくる
- ②友達との触れ合いの中で玩具や遊具の貸し借りや順番を守って遊べる
- ③身近な大人の行動や日常経験していることを自由に思い出し、友達とのごっこ遊びに取り入れる
- ④友達といることの喜びや楽しさを感じ、仲間意識も少しずつ芽生えるが、まだまだ自分の気持ちを抑えられず、けんかになることも多い

(2) 配慮

- ①一人ひとりの子どもの様々な欲求を受け止めることによって安心感や信頼関係を深め、安定した生活ができるようにする。そして、保育士が仲立ちとなり友達との触れ合いの機会を多く持てるようにする
- ②初めて集団生活をする子どもや、不安な子どもには手をつないだり、一緒にいることで安心して遊べる場所を見つけ、その中で友達と関わるきっかけをつくる
- ③けんかやおもちゃの奪い合いのときには、間に入って仲裁したり、お互いの気持ちを伝えたりしながら見守っていく
- ④順番を守ったり、交代をしたりすることの大切さや遊んだ後の片付けの大切さを伝えていく
- ⑤友達とのけんかを通して相手の思いに気付かせ、時には我慢することも大切だということを伝えていく

2. 遊び

- (1) 保育士と一緒に楽しむ。
- (2) 保育士と一緒にわくわく・ドキドキするような遊びをたくさん経験する。
- (3) ごっこ遊びや伝承遊びが出来るように保育士が仲立ちをして遊ぶ楽しさを知らせていく。
- (4) 好きな場所を見つけて安心して遊びを楽しむ。

(1) 室内遊び

室内遊び	配慮事項
〈コーナーでの遊びを十分楽しむ〉 ・ ままごと ・ ブロック（レゴ、モノ、大型） ・ ゲーム（ジグソーパズル） ・ 電車、線路 〈手・指先を使った遊びを楽しむ〉 ・ 粘土 ・ 穴通し 〈保育士に手伝ってもらいながら、造形遊びを楽しむ〉 ・ お絵描き(自由画帳) ・ 牛乳パックやちらし等を使用した製作(剣作り、etc.) ・ 折り紙 〈その他の遊び〉 ・ 椅子取りゲーム ・ フルーツバスケット ・ マット、巧技台、体操等 ・ ゲーム、積み木、etc.	・ 走り回ったりせず、ゆったりとした気持ちで遊べるようにする ・ 壊れたり、紛失した玩具がないか常に点検する ・ 室内でも心身ともに発散でき、楽しめるように工夫する ・ ホールを利用し身体を動かして遊んだり、クラスでは出来ないダイナミックな遊びを取り入れる

(2) 戸外遊び

戸外遊び	配慮事項
〈泥・砂・水遊びを楽しむ〉 ・泥だんご作り ・かたまり作り ・砂場での川、山作り ・裸足になって遊ぶ ・色水作り	・汚れを気にしないで遊べる機会をつくりダイナミックに遊べるようにする
〈固定遊具や乗り物遊具を楽しむ〉 ・ブランコ ・雲梯 ・総合遊具 ・鉄棒 ・のぼり棒 ・すべり台 ・たいこ橋 ・三輪車 ・キックボード ・モンキーカー ・ジャングルジム	・事前に危険のないよう、石拾いなどの安全点検をする
〈簡単なルールのある遊びを覚えながら保育士と一緒に楽しむ〉 ・鬼ごっこ ・へびじゃんけん ・かけっこ ・かくれんぼ ・引越しゲーム	・身体全体を十分動かして楽しめる遊びも工夫する
〈ボールを使った遊びを楽しむ〉 ・ボール投げ ・ボール蹴り ・バクダンゲーム (その他の遊び)	・戸外に出るときはクラス単独で遊ばせないで、複数の保育士で遊ばせるようにする
〈伝承遊びを楽しむ〉 ・花いちもんめ ・あぶくたった ・だるまさんがころんだ ・まりつき ・長縄遊び (へび、波とび、大波 小波etc.)	・子どもがどこでどんな遊びをしているか、保育士は常に安全に遊べるよう気を配る

(3) プール遊び

①プールに慣れ水遊びを楽しめるように工夫する。嫌がる子どもには無理をさせず少しずつ慣らしていく

②危険を伴うので子どもたちに危ないことや、やってはいけないことを教える

- ・保育士の話聞き約束を守る
- ・プールのまわりは走らない
- ・出入口以外からは出入りしない
- ・プールの淵に登らない

③プールに入る前に必ずチェックする事

- ・プールにテントを張る（紫外線対策）
- ・タライに消毒液をつくる（消毒槽）
（シーズン初めに塩素濃度を測定し、消毒槽の大きさによってピューラックスの量を決める）
- ・タライの消毒液は各クラスごとに取り替える
- ・プールに塩素を入れる（各園のプールの大きさに合わせ、塩素濃度を測定する）
- ・温水シャワーのスイッチを確認する
- ・子どもの顔色（鼻水、咳、目やに等）に気をつける。体調が悪そうな子ども、病み上がり子どもには特に注意する

④準備

- ・準備体操をしっかりする（リズム運動、体操、etc.）
- ・プールバッグは水に濡れないよう所定の場所におく
- ・温水シャワーの温度を調節し手、足、おしり、お腹、頭の順に、シャワーをかける（頭からかけるのを嫌がる子どもには無理にシャワーをかけない）
- ・タライの消毒槽におしりをしっかりつける

⑤プールに入る時

- ・プールの階段から静かに入る
- ・全員プールに入った事を確認したら、自分で顔、胸、頭などに水をかけた

り、水のかけっこ等をして十分水に慣れさせる。嫌がる子どもは保育士と一緒にいき、あまり無理をさせない

- ・ プールの中は死角が出来やすいので気をつける
- ・ 常に子どもの人数を把握して安全を確認しておく
- ・ 予想できない事故が起こる事があるので目を離さないようにする。もし、その場を離れる時は、他の保育士に声をかける
- ・ 保育士は必ず2人以上で入る（一人がプールに入り、もう一人はプールサイドの子を見ながら監視する）
- ・ 入っている途中、顔色が悪かったり寒そうな子どもはプールから出して様子を見る
- ・ 紫外線が強いのでプールから上がった後、甲羅干しはしない。特にアトピーの子どもは注意する

⑥プールの中の遊び

- ・ ワニ歩き ・ ヒヨコ歩き ・ カエル ・ トンネルくぐり
ホースくぐり
- ・ 流れるプール ・ 魚とり ・ おはじき拾い ・ ボールとり競争
- ・ 口を水面につける（ブクブク）
- ・ 手ですくった水を口でブクブクする
- ・ 水のかけ合い ・ 肩まで浸かって10秒
- ・ 保育士や友達と手をつないで1・2のジャンプ!! etc.

⑦プールから上がる時

- ・ プールから上がる時は、全員外へ出たかを確認する
- ・ シャワーを浴び、身体をきれいにする
※特にアトピーの子どもは塩素をしっかりと流す
- ・ プールから上がった後は子どもたちの気がゆるみケガをしやすいため十分注意する
- ・ 身体をきちんと拭くように言葉をかけ、拭けない子どもには手助けをする（特に髪の毛など）

- ・最後に個人の忘れ物がないかを確認して上がる

⑧その他の注意

- ・水中で転んだ時、手が前に出るような遊びを十分させる
※カエルジャンプ、手をつなぎながらしゃがむ等の、前に進む動作を十分させる
- ・最後のクラスの保育士は、浄化または排水をしておく
- ・プールに入れない子どもについては、目のとどく範囲で遊ばせたり（粘土、お絵描き、etc.）他のクラスに預ける。複数担任の場合は担当を決めて子どもをみる

【環 境】

1. 室内環境

- (1) クラスの中では子どもたちが安全、快適に過ごせるよう使った教材等は片付け、整理整頓を心がける。
- (2) 木の実や草花を飾って、季節感が感じられるように環境を工夫したり、保育士自身も興味を持って感じたことをつぶやいたりする。
- (3) 子ども用の絵本は子どもたちが取り出しやすい場所に置き、時々点検をして、破れた時は子どもと一緒に修理する。
- (4) 玩具は子どもたちと一緒に管理し、使いやすい場所へ置くようにする。
- (5) 押入れの下段や部屋の一部を利用し、ままごとコーナーを作り、カーテンをつけたりテーブル等を置いて家庭的な雰囲気にする。
- (6) 壁面製作は季節を感じられるようにし、子どもたちが楽しく参加できるように工夫する。

2. 飼育や栽培

- (1) 身近な生き物（ザリガニ、メダカ、おたまじゃくし、鈴虫、かぶと虫等）を保育室や廊下等に置き、触れて遊んだり、保育士と一緒に世話をしたりする事で興味をや関心を持ち、また、成長や変化に感動する気持ちを持てるようにする。
- (2) 動植物の飼育や栽培は、保育士が親しみや愛情を持って関わられるようにし、子どもが自分から世話をしたいという気持ちになった時はその思いを大切に一緒にする。
- (3) 保育士や年中・年長が種まき、苗植えをする様子を見ることによって、成長に興味・関心を持てるようにする。
- (4) 身近な動植物の飼育や栽培活動を行なう時は、保健・安全面に十分留意する。

3. 散歩・園外保育

(1) 各園の園庭や近くの公園に園バスに乗って園外保育（ラグビー場、別府沼公園等）に出掛け様々な経験が出来るようにする。

①遊具で遊んだり、身体を動かして遊べるようにする

②草花・虫・木の実等を見たり、集めたり、触れたりする事で自然の事象に気付けるようにする

③戸外の開放的な気分の中で、遊びを楽しめるようにする

(2) 自分の通っている園周辺の様子を見せたり保育士が伝える事で身近な事象の変化に子どもたちが興味、関心を持ったり、色々な事に気付けるようにする。

(3) 季節に合った自然に触れられるような場所を撰ぶ。

(4) 準備と安全対策

①行き先は、事務室、主任もしくは他のクラス、園に残っている職員に伝える。また、単独行動はやめ必ず保育士は2人以上で出かける

②行き場所によって、持っていくものを確認する

- ・救急バッグ　・ティッシュペーパー　・ビニール袋　・笛
- ・携帯電話　・防犯ベル　・横断旗
- ・ペットボトルに水を入れたもの（消毒用）

※遠出する場合は園用の着替えを持っていく

③帽子を必ずかぶせる

④トイレを済ませる

⑤天候により衣服を調節する

⑥初めて行く（久しぶりに行く）場所は必ず下見をし危険箇所がないか確認しておく

⑦道路の歩き方

- ・車がきたら笛を吹いて子どもと他の保育士に知らせ避けて待たせる
- ・子どもの後ろと前に保育士がつく
- ・道路を横断する時は先頭以外の保育士が左右の確認と誘導をし、先頭の保育士は子どもと一緒に渡っていく

- ・子どもの歩幅に合わせて歩く
- ⑧現地についたら、危険な場所を子どもたちに話し保育士は分散して見守る
- ⑨事故やケガの場合は、状態に応じてすばやく連絡をとり他の子どもたちの安全も確保する
- ⑩常に人数の確認をしておく
- ⑪バスを利用する場合は、早めに運転手と連絡を取り内容を確認し合う
- ⑫草花や虫をとったビニール袋は、園に持ち帰るように話し保育士は点検をして持ち帰る

4. 行事への参加

- (1) 色々な生活体験をさせることが大切なので、行事を通して豊かな感情体験ができるように保育士が自覚を持って取り組む。
- (2) 保育士も子どもも、楽しく取り組めるような内容にする。
- (3) 緊張しやすい子どもや場所が変わると不安になる子どももいるので、園と家庭の連絡を取り合いながらみんなが楽しく参加できるよう工夫する。
- (4) 行事食を用意して楽しく参加できるようにする。(七夕、クリスマス、豆まき、お別れ会など)

「お誕生会」

- ①毎月、月初めに行なう（各園ごとに、また3園合同か事前に打ち合わせをする）
- ②担当保育士を決め、その保育士を中心に誕生したことや大きくなった喜びを感じられるような内容を企画する
- ③ペンダントを用意し、カードは手作りをし、誕生日当日に渡せるようにする
- ④各クラスでもおやつや食事の時に「おめでとう」を言ったり、誕生日の子どものお話をしたりして祝う

「七夕祭り」

- ①願い事や希望を短冊にたくしたり、飾りつけをしたりして雰囲気作りをする
- ②絵本や紙芝居、劇をみせたりして日本の伝統行事を伝える
- ③お集まりをしたり行事食を食べたりして楽しむ

「祖父母参観・祖父母との交流」

- ①祖父母と楽しく交流できるような内容（活動・会食等）を検討し、招待された方への気配りをする
- ②敷物や椅子を用意する（ざぶとんを用意してもらう）
- ③祖父母が来ていない子どもに寂しい思いをさせないように全体的な交流を考える
- ④参加者の名札やおみやげを用意する

「運動会」

- ①楽しんで参加できるような曲を選んだり、競技の内容を工夫する
- ②練習が無理なく出来るように計画を立てる
- ③親子競技は親子の触れ合いを大切に考え、一緒に楽しめる競技を選ぶ
- ④子どもの気持ちを配慮しながら、泣かずに参加できるように取り組んでいく

「秋祭り」

- ①親子で楽しい一日を過ごせるような企画をする

「生活発表会」

- ①自分のクラスをよく把握し、子どもたちが楽しく取り組める出し物を決める
- ②練習がマンネリ化や押し付けにならないよう変化をもたせ、また、時間も上手に使う
- ③みんなの前で発表できたことを喜び、自信につなげるようにする

「クリスマス会」

- ①クリスマスを楽しむための製作やツリーを飾ったり、雰囲気作りをする
- ②保育士の出し物やサンタクロースの登場など、子どもたちが楽しめる内容を企画する
- ③子どもの状況により、会食の方法を検討する

「餅つき」

- ①昔ながらの伝統行事を楽しめるようにする
- ②子ども用の杵で一人ひとり餅をつく経験ができるようにする
- ③地域の方や保育士と楽しく餅つきが出来るような雰囲気づくりをする
- ④ふかした餅米からつきあがった様子を見て、みんなでつきたての餅を味わう

「豆まき」

- ①季節の伝統行事を体験する
- ②鬼を怖がる子どももいるので、あまり恐怖心を持たせないようにする
- ③お集まりのなかで「節分（豆まき）」の話を伝える

「造形展」

- ①年間を通して造形に取り組み、その子どもが楽しんで取り組めた作品を展示する
- ②一人ひとりの子どもの作品を大切にし、その作品が生きるような方法で展示する
- ③作品の出来栄だけでなく、その子どもの成長を保護者に知らせる
- ④自分の作品を見てもらったことを喜び、自信につながるように働きかける

「お別れ会」

- ①年長組を送り出す事を知らせ、自分達が年中組になることへの喜びや期待を持たせるようにする

- ②お別れ会の係になった場合は、異年齢児の交流が出来るような企画を立てたり、お集まりや会食についての話し合いをすすめる

5. ちえのみあそび

子どもが、自分で解決しようとする意欲や態度を養うことを目的とした教材を使い、「できた・できない」という結果よりも、課題解決の過程でいろいろな試行錯誤を繰り返し、新しいことに気付いたり発見したり、自分の考えで遊びを進めていくことを大切にしている。園では3歳児から取り組み、それぞれの年齢にあったペースと量をカリキュラムに組み込み実践している。

また、毎年「ちえのみあそび」の園内研修を行なっている。

- (1) 子ども達が教材の準備や手順に戸惑わないように室内環境を工夫する。
(机の位置・配置)
- (2) 子どもが集中して話が聞けるような導入方法ですすめる。
- (3) 固定観念にとらわれず子ども独自の発見や気づきを尊重する。
 - ・保育士の思いを優先させず子どもの思いを優先する
 - ・子どもの良いところを見つける
 - ・子どものつぶやきを見逃さない
- (4) 内容に関しては、どのくらいで出来たか把握はするが、出来ない子に対して間違いを指摘したり、無理にやらせず一緒にやったり量を減らす等してその子に合った課題を経験させる。
- (5) 子どもの能力や個人差に合わせて進度を調節し、その子どものペースで遊びを継続させる。(早く終わった子どもは、無意味に待たせないで、次の課題や補助教材で遊びの継続を図り、意欲的な気持ちや態度を持たせるようにする)
- (6) 終わりの配慮は、子どもの頑張った内容を具体的に取り上げ、それを評価して喜びや自信を持たせるようにする。

【言葉】

1. 言葉

- (1) したいこと、してほしいこと、質問、疑問を言葉で表すようになるが、まだ不十分な面もあるので子どもの欲求や気持ちを言葉の中から丁寧にくみとるように心がける。
- (2) 自分の要求や困ったこと等が言えるように日頃から信頼関係を作っておく。
- (3) あいさつができるように日頃から保育士間や保護者と挨拶している姿を見せたり、子どもの目の高さになって明るく声をかけたりする。
- (4) 言葉は聞いて覚えるものなので、保育士は自分の言葉遣いにも注意し、幼児語が残る子どもや吃音がある子どもには間違いを指摘したり、言い直しはさせないで保育士が正しい言葉で返す。
- (5) 子どもの名前は呼び捨てにせず、特に新学期などには子どもたちが安心できるように家庭で呼ばれている愛称で呼んだりする。
- (6) 子どもからの話かけに耳を傾け、保育士が先取りしないようにする。
- (7) 語彙が増え自己表現も少しずつできるようになってくる年齢なので、みんなの前で話す機会や友達の話・発表を聞く機会をつくる。
例：①自分の名前・両親の名前、年齢が答えられる
②当番の挨拶（自己紹介、食事、おやつの挨拶）
③繰り返しのある簡単な言語劇あそびを楽しむ
- (8) 乱暴な言葉遣いや、名前を呼び捨てにしている子どもがいたら相手が嫌な思いをする事を教え子どもに問いかけ、気付かせる。
- (9) 絵本や紙芝居などを通して、様々な言葉の音（擬音語、擬声語）の面白さに気付くようにする。

【表 現】

1. 造形活動

(1) クレヨン、絵の具を使ったなぐり描きをたくさん経験させ、その中で一人ひとりに応じた対応をする。

- ①自分から表現しようとする気持ちが育つような語りかけをする
- ②具体的な形より、ムーブを大切にする ※ムーブ：動きのある絵
- ③保育士自身生活経験を豊かにし、視野を広げ感性を磨く
- ④講師の造形指導を生かし、自分たちの造形活動に取り入れていく

(2) のり、はさみ、粘土の経験をたくさんさせる。

※粘土は立体的なものが作れるように、まがたま型を使ったウサギ等を保育士と一緒に作って遊び、自分で作ろうとするきっかけをつくる。

(3) 指先を使う経験を取り入れる。(ちぎる・丸める・折る)

(4) 初めは経験不足のために興味が持てない子どももいるので無理強いしないようにする。(のり、はさみ、クレヨン、粘土)

(5) 出来上がった作品を片付ける場所を決めておく。

(6) 年少組では、お道具類は全部個人持ちになるので使い方、管理を教える。

- ①道具箱の中は年間を通して月1回位子どもと一緒に片付けをしながら確認をする。(数、しまい方)

(7) 個人持ちの道具について

クレヨン	・クレヨンを折ったり、カバーのビニールをむいたりしないよう伝える ・自由画帳は6月頃より個人的に使用するが、どれくらい使っているのか、何を描いているか等、保育士が目を通し一人ひとりを把握しておく
はさみ	・危険が伴うので、安全な使い方を教えていく ・管理は保育士がする
のり	・人差し指で少しずつつけるように教える ・グループ毎に手拭きタオルを用意する（タオル1／2大が使いやすい）

2. 音楽・リズム遊び

(1) 年間を通して季節に合った歌を教え楽しく歌う。

- ①きれいな声で元気よく歌えるようにする（怒鳴ったりふざけたりしないようにする）
- ②伴奏の苦手な保育士はピアノの練習をしたり、他の楽器を使うなどして歌うことを楽しめるようにする
- ③歌詞に合わせて振り付けを考え身体全体で楽しく表現できるようにする
- ④保育士自身が正しい音程で歌い表情豊かに楽しんで歌う
- ⑤毎日の保育の中で歌を歌う時間をつくる
- ⑥いろいろな童謡を教え、親しみが持てるようにする

(2) 音楽に合わせて、身体で表現できるよう楽しい雰囲気作りをする。

- (3) 色々な楽器を見たり、触れたり、音を出したりする中で楽器特有の形、手ざわり、音、動きなどに気付かせ興味が持てるようにする
- (4) 友達と一緒に音楽を聴いたり、歌ったり、身体を動かしたり、楽器を鳴らしたりして楽しめるようにする。

(6) 安全対策

1. 子どもの命を守る為に、安全対策について職員が共通理解をしておく。
2. 子どもが日々安全に生活ができるよう、常に安全点検をする。(表1)
3. 災害時に落ち着いて速やかに対応ができるように定期的に訓練をする。(表2)

(1) 施設の安全管理と点検表 (表1)

施設	チェックポイント	対策と配慮事項
保育室	・ 棚から転落するものはないか ・ 掛け時計はしっかり固定されているか ・ テーブル、椅子の足のふらつきはないか ・ 温度計の管理はされているか ・ 出入口の開閉はスムーズか ・ 窓の近くに踏み台になるような物は置いていないか ・ 園用着替えタンスは転倒の危険はないか ・ ベッドの柵にぐらつきはないか、留め金具は留まるか (乳児室) ・ ベッド内に危険なものは置いていないか ・ 掲示物ははずれる危険がないか	・ 棚から落ちやすいものは留めておく ・ 掛け時計は専用のねじでしっかり留める ・ テーブル、椅子のボルトはゆるんでいないか随時確認する ・ 各室に温度計はあるか。落下の危険はないか ・ 掃き出しサッシは溝に砂がたまりやすいので、常に掃除をする ・ 窓の下に足架かりになるようなものは絶対置かない ・ タンスなどの家具は壁や天井に金物により固定する ・ ベッドの柵と留め金具は毎日確認する ・ ベッドは柵の高さ55cm以上で、間隔が7cm程度のものが望ましい ・ ビニール袋等ないか ・ 掲示物の留め金具を工夫する。画鋏は落ちた時計が上向きになるので使わない
天井 エアコン 照明器具 扇風機	・ 照明器具はきちんと取り付けられているか ・ コード、コンセントの破損やつまづく危険はないか ・ 扇風機に不具合はないか (音や異物に注意)	・ 全クラスに蛍光灯落下防止カバーを付ける ・ 蛍光灯が切れたらすぐ取り替える ・ コードは長いままにせず、つまづいたり引っ張ったりしないように壁や床に留める。必要に応じてカバーを付ける ・ 異常に気づいたらすぐに修理する(扇風機の羽根等はきちんと固定されているか) ・ エアコンのフィルター掃除をこまめにする
廊下 ベランダ	・ 濡れて滑りやすいところはないか ・ 2階からの転落予防のため手摺付近に物が置いていないか	・ 気がついたらすぐに拭く ・ 毎朝、保育の始まる前に確認するとともに、子どもがむやみにベランダに出ないように注意する

施設	チェックポイント	対策と配慮事項
窓 網戸	・窓ガラス、戸、サッシ、網戸の破損はないか ・カーテン、カーテンレールの破損はないか	・破損を見つけたらすぐに修理する ・網戸がはずれやすくなっていないか点検する
手洗い場 足洗い場	・水の排水がよい ・足ふきマットが滑らないか ・タイルに破損はないか ・給湯設備が正常に動いているか	・外の水場は砂がたまり易いので定期的に柵の砂をかき出す ・ノンスリップマットを敷く ・シャワーの温度が一定に保たれていないとやけどを起こす危険があり、サーモスタットが付いていても必ず保育士がお湯に手をあてながら子どもに接する ・足洗い場内にもスリップ防止に人工芝を敷き、きれいにしておく
トイレ 沐浴室	・湿気がなく換気が出来ているか ・給湯設備が正常に働いているか ・シャワーの温度が一定に保たれているか ・清掃用の薬品の管理は適切になされているか ・便器に便や尿が残っていないか	・シャワーの温度が一定に保たれていないとやけどを起こす危険があり、サーモスタットが付いていても必ず保育士がお湯に手をあてながら子どもに接する ・アルコール手洗い消毒器の設置 ・浴室内にノンスリップマットを敷き、きれいにしておく ・床が水やおしっこ等で少しでも汚れている時はすぐに拭き取る ・清掃用の薬品は子どもの手の届かない所に置く ・男性用便器に尿石がつかないように定期的に排水溝のカバーをはずし清掃する
門 園庭	・門扉は閉まっているか ・門の滑車の状態はよい(滑車が外れていないか、レールはさびついていないか) ・小石、ガラスの破片、釘等危険なものが落ちていないか ・水はけの状態はどうか ・樹木に害虫はいないか ・プランターに破損はないか ・庭に穴ぼこはないか ・フェンスの外側に犬のフンはないか ・園庭内に雑草は生えていないか	・門扉の高鍵(高い位置の鍵)はきちんと施錠されているか ・滑車が油切れしていると動きが悪く思いがけない事故に繋がる危険がある。動きは常に良い状態に保つ ・小石、ガラス破片、釘等の危険物除去は年齢の高い子と一緒にすることにより安全意識を持たせる ・樹木の害虫駆除は、気づいた時に対処しないとすぐに広がってしまうので注意し、子どもがいない時間帯や休日を利用して行う ・土が軟らかい時に草むしりをしてきれいにする

施設	チェックポイント	対策と配慮事項
砂場	・ガラスなどの危険物がまじっていないか ・砂場ネットの破損はないか ・猫、鳥のフンはないか ・砂場の玩具の点検はできているか	・砂は業者に定期的に消毒を依頼する ・砂場の周りに出てしまった砂は戻す ・砂場の猫や犬のフン対策として薬品使用について看護師と相談したり、砂場ネットをかける ・砂場の玩具は定期的に点検し、破損したものは除く
遊具 すべり台 ぶらんこ 鉄棒 ジャングルジム 総合遊具 アニマルベット グローブジャングル	・すべての遊具に錆び、ネジのゆるみ、板の破損、支柱のぐらつき、損傷、腐食はないか ・本体にぐらつきや異常がないか ・設置場所に十分な余地はあるか ・溶接部は腐食していないか ・三輪車やモンキーカーのハンドルの破損、錆び、ぐらつきはないか ※雨上がりは特に濡れて滑りやすい。特にジャングルジム	・ブランコは危険が多いが、安全対策を講じた改良品が販売されているので取り替える必要があるところは留意しておく ・夏は滑り台の滑り面が高温になり「やけど」するので注意する ・雨の日の翌日や雨上がりは、鉄棒やジャングルジムは濡れていて滑りやすく危険があるので、濡れたところを拭いてから使用させる ・鉄棒やジャングルジム、ブランコ、滑り台等の固定遊具には必ず保育士がつき安全確保に努める ・外遊びの時の職員の位置を具体的にする ・アニマルベットは濡れると滑りやすいので、水気をふき取る ・室内遊具は、ピューラックスを薄めた液でふき取る
プール (夏季)	・周辺のコングリートやマットの破損はないか ・水の浄化状況、塩素濃度は適当か ・排水溝の蓋は外れやすすくないか ・シャワーは清潔で正常に動いているか ・プールサイドが滑らないようになっているか ・プールで使う玩具に破損はないか	・プールに入る前はプールの外周を細かく点検する ・プール遊びの約束事を伝える（プール開きの日やプール遊びの時等、危険について随時伝える） ・体をシャワーで清潔にしてからプールに入る ・プールの残った水は、危険なので排水しておくか、普段はプールに入れないようにカバーをしておく ・破損をみつけたらすぐに修理をする ・休日前はプールの水を抜く

施設	チェックポイント	対策と配慮事項
お散歩カート ベビーカー	・ブレーキ、タイヤの状態はどうか ・カートの手すり、床板にささくれないか ・ベビーカーを使わない時はカバーが掛かっているか	・使用前に必ず点検する ・カートの定員（6名）は厳守する ・カート置き場も清掃をわすれないよう注意する ・子どもが押しても動かないようにストッパーをかけるのを忘れない、または車輪止めを置く ・雨やほこりで汚れないように管理する
保護者の送迎 駐車場	・決められた場所への駐車を守っているか ・保護者が子どもの手を離して車に向かっていないか ・車の中に貴重品を置いていないか ・バックして駐車する時は危険が伴うことを認識しているか ・草が生えていないか ・保護者の送迎時の門の開閉に気を配っているか	・定期的に駐車場の注意を保護者に知らせる ・親同士が協力して、子どもが車に安全に乗れるように働きかける ・交通安全教室を行い、事故の危険性を知らせる ・送迎の際、保護者が必ず門のカギを閉めているか確認する ・門付近での立ち話はしないように注意する ・門付近は駐車禁止を守ってもらう ・駐車場の清潔や草取りをして管理をしていく

(2) 非常災害対策訓練年間予定表 (表 2)

月	設定	ねらい	幼児の活動と留意点
4 月	消火訓練 (お話・図上)	・職員が子どもの生活を守る使命を確認する ・非常ベルの音を知る	・紙芝居や絵本を通じて災害についてのお話を聞く ・実際に非常ベルの音を聞く ・各クラスで災害について避難、通路、方法について説明する ・職員同士の係りの確認をする ・園児および職員の緊急連絡表を用意し持ち出せるようにしておく
5 月	避難訓練 (火災) (地震)	・避難場所を知る ・非常ベルの合図で避難場所に集合する ※地震時の避難を仕方を知る	・新入児が驚くのでベルを鳴らす前に放送して知らせる ・合図を聞いて保育士の所に集まり、集合場所まで移動する ・三つの約束を徹底する ①押さない ②駆けない ③しゃべらない ・靴を履いて避難させる ・いたずらに緊張や不安を与えることのないよう、あらかじめ話をする ・年齢差、個人差を十分に配慮しておく
6 月	避難訓練 (火災通報訓練)	・非常ベルの合図で避難場所に集合し、話を聞く	・合図を聞いて保育士の所に集まり、集合場所まで移動する ・事務室が消防署へ119番通報 ・消火班、誘導班に分かれて対処する
7 月	避難訓練 (地震)	・地震時にすばやく避難する	・保育者の指示により、安全な場所 (机の下) に身をよせる ・放送で地震を知らせる
8 月	避難訓練 (火災)	・非常ベルの合図で避難場所に集合する	・自分の担当を職員が各自確認して訓練を行う
9 月	避難訓練 (火災通報訓練)	・非常ベルの合図で避難場所に集合する	・自分の担当を職員が各自確認して訓練を行う ・非常ベルを鳴らし事務室が消防署へ通報

月	設定	ねらい	幼児の活動と留意点
10月	避難訓練 (炊き出し、地震) ※年少以上	・室内外、それぞれの場所に 応じた適切な避難方法を理解 する	・近くにいる保育士の指示により安全な場 所に身をよせる ・内外の危険場所の確認をする ・大きな釜戸で職員が豚汁を作り、子ども 達と試食する
11月	避難訓練 (食事時の地震)	・食事中に起きた場合の避難の 仕方を知る ・地震により、火災が発生する ことやその怖さを知る	・食事を中断し、振動がおさまるまでは安 全な場所に身をよせ、保育士の指示で次 の行動に移る ・激震時の職員の対応について話し合う
12月	避難訓練 (火災-午後の外遊び)	・外遊びでの適切な避難方法を 知る	・近くにいる保育士の指示により安全な場 所に身をよせる
1月	避難訓練 (火災総合)	・誘導、避難、通報について消 防署より実際の指導を受ける (消防署員立会いの指導)	・訓練に参加し、消防署員より話を聞いた り、映画を観たりする ・指摘事項について、子どもと一緒に再度 話し合う
2月	避難訓練 (火災)	・自由遊びの中の避難方法を 知る	・近くにいる保育士の指示により安全な場 所に身をよせる
3月	避難訓練 (地震、火災) ※三園合同	・訓練での約束事を再度確認する	・地震から火災へ ・一年間の訓練を通して話し合いをする (年少以上) ・非常ベルを鳴らし避難する ・事例を挙げながら、一年間を振り返る ・職員間で一年間を反省する

避難場所 なでしこ保育園 → ネルケ駐車場・園庭門付近
 第二なでしこ保育園 → 園庭南鉄棒付近
 第三なでしこ保育園 → 園庭東側駐車場・裏園庭

(3) 防犯対策

- (1) 門は必ず施錠する
- (2) 登降園時の門当番については出入の人に注意する
- (3) 防犯器具の配慮について

◎各園の主要箇所を防犯ベルが配置されているので確認し、非常時に対応できるようにしておく

※散歩用防犯ベルは散歩に必ず持って出かける

◎竹刀（各園3本）

各園で置く場所を話し合い決めておき、子どもの手の届かないところに置いておく

- (4) 園内に不審者が侵入し、危険を感じたときは犯人の顔目がけて消火器を使うのもよい

警報機発報の対応

- (1) 原因……………部屋の中にある煙感知機・熱感知機によるもの 火災警報器
- (2) 初期の状況……火災報知機の音 警備保障の音 2種類の音がする
- (3) 対応……………①セコム関係の器具の音を消すために、次の動作をする
 - ・警報機の「停止ボタン」または「復旧ボタン」を押す
 - ・カードキーを入れる（各園とも必ずセコムのカードキーを一定の場所にかけておく）
 - ・チェックボタンを押す
 - 「落ち着いてください」と機械が言う
 - ・セコムボタンを押すと解除になる
- ②火災報知機の音を消すために
 - ・停止ボタンを押す
 - 2種類のボタンを押す（主音響・地区音響）
 - 3園とも報知機の形は異なるが異常の位置や停止ボタンは共通している